まちづくり円卓会議報告書

（「70 歳代からの地域デビューを考える～」）

西東京市市民協働推進センター

目　次

１．要　約　１

２．まちづくり円卓会議　２

2.1 テーマ選定

2.2 開催状況　２

2.3 まちづくり円卓会議の板書（記録）　４

2.4 議論の記録　６

成果・課題

2.5 アンケート結果　７

３．その他

まちづくり円卓会議　メンバー紹介　８

（敬称略）

１．要　約

「まちづくり円卓会議」は、平成 24 年度の新規事業として地域連携促進事業のなかで開始し、以降重点事業として継続実施してきました。

平成 24 年度は「居場所づくり」をテーマにまちづくり円卓会議を 2 回実施しました。平成 25 年度は、前年度の協議をふまえ、テーマを「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」とし、前年度に引き続いて全 5 回のまちづくり円卓会議を実施しました。地元の農業者と連携した収穫祭など具体的な居場所づくりの活動も実施できました。また、会議メンバーを中心に、自主的に活動するグループ（ノーマライゼーション西東京の会）の誕生にも繋がりました。

平成 26 年度には、2 つ目のテーマとして「子どもの声に向き合うために～今私たちにできること～」を取り上げ、年度内に 2 回、平成 27 年度に 3 回の話合いを継続して実施しました。このまちづくり円卓会議がきっかけとなり、会議メンバーが関わっている「放課後＠カフェ」を後押しするとともに、市内全域に放課後カフェの活動を広げたいとの気運が盛り上がりました。そして、別の会議メンバーが関連する校区で放課後カフェを始めたり、会議メンバーを中心とした自主的に活動するグループ形成（西東京子ども放課後カフェ）に繋がりました。

平成 27 年度には、柳沢公民館のチャレンジ講座「いきいき超高齢社会～西東京市でピンチをチャンスに変えよう」と連携し、共催でまちづくり円卓会議「70 歳代からの地域デビューを考える」を 2 回開催しました。また、その間で会議メンバーによる事前会議を行い、方向性のすり合わせを行っています。立場の違う視点から実感している超高齢社会の課題を共有し、課題を絞り、具体的な対策について参観者も交えて意見交換を行いました。ファシリテーターからの呼び掛けで継続して話合いを行う流れになり、さらに、ファシリテーターからは対策が提案されて、それを具体化していく方向性が生まれました。

今回は、公民館の生涯教育とゆめこらぼの市民活動支援を連携し、相互に循環・協働する動きにつなげる試みとして、初めて公民館の連続講座と連携・共催で進めた「まちづくり円卓会議」でした。

柳沢公民館の「いきいき超高齢社会チャレンジ講座」全 7 回の講座の 6 回目として、まちづくり円卓会議を行い、西東京市でピンチをチャンスに変えられるかを話合いました。そして、ピンチをチャンスに変えるには元気なシニアである潜在アクティブ層をアクティブ層になることが必要との考えで、2 回目の会議では「70 歳からの地域デビューについて考える」とテーマを絞りました。その結果、より具体的な提案をもとに話合いを実施し、具体的な方向性について会議メンバーだけでなく参観者も含めて合意することができました。

今後の解決に向けての動きに参加意思を表明した市民も多数あり、次年度は引き続き同様のテーマで公民館と連携し具体化を進めていくことが今後の課題（使命）となっています。

２．まちづくり円卓会議

2.1　テーマ選定

平成 27 年度第 4 回運営委員会でまちづくり円卓会議の年間企画に対する協議を行いました。公民館との連携で進めていくことと、高齢社会における課題解決をテーマにしていくことについて合意を得ました。

2.2　開催状況

Ⅰ　講演および第 1 回まちづくり円卓会議

(1)日時・場所：平成 28 年 11 月 3 日（木・祝）柳沢公民館　視聴覚室

(2)参加者：ファシリテーター：熊田博喜（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科　教授）

会議メンバー　6 人、

板　書：鴨志田結花（対話ラボ）

参観者：45 人（講座受講生 26 人、一般 19 人）

(3)会議メンバー：青山早岐（柳沢公民館講座受講生：柳沢公民館保育付きママサークル所属）、有馬将由（柳沢公民館講座受講生：NPO 法人終活支援センター代表）、町田栄一郎（講座受講生：三幸自動車株式会社　代表取締役）、妻屋良男（西東京市社会福祉協議会　福祉活動推進課課長補佐兼地域福祉推進係長）、中村眞弓（西東京市西原町包括支援センター　主任介護支援専門員）、横山桂樹（西東京市健康福祉部高齢者支援課　課長）

(4)概要：柳沢公民館のチャレンジ講座で学び、発見した課題に対して公民館とゆめこらぼが連携して、まちづくり円卓会議へと引き継いで解決に向けて話し合った。テーマは「いきいき超高齢社会～西東京市でピンチをチャンスに変えよう～」。

講座内容全体を振り返った後、具体的課題として「70 歳代からの地域デビュー」について説明が行われ、円卓会議メンバーや会場の参観者とも意見交換が行われ、引き続き解決策についての話合いを行うこととなった。

Ⅱ　次回まちづくり円卓会議に向けての事前会議

(1)日時・場所：平成 27 年 12 月 6 日（火）19:00～21:00

ゆめこらぼ　サロンコーナー

(2)参加者：ファシリテーター：熊田博喜（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科　教授）

会議メンバー　6 人、

板　書：鴨志田結花（対話ラボ）

(3)会議メンバー：青山早岐（柳沢公民館講座受講生：柳沢公民館保育付きママサークル所属）、有馬将由（柳沢公民館講座受講生：NPO 法人終活支援センター代表）、町田栄一郎（講座受講生：三幸自動車株式会社　代表取締役）、妻屋良男（西東京

市社会福祉協議会　福祉活動推進課課長補佐兼地域福祉推進係長）、中村眞弓（西東京市西原町包括支援センター　主任介護支援専門員）、横山桂樹（西東京市健康福祉部高齢者支援課　課長）

(4)概要：1回目のまちづくり円卓会議を受けて、次回のまちづくり円卓会議のコンセプトや方向性についての話合いを行った。

Ⅲ　第2回まちづくり円卓会議

(1)日時・場所：平成28年1月28日（土）10:00～12:30　柳沢公民館　視聴覚室

(2)参加者：ファシリテーター：熊田博喜（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科　教授）

会議メンバー　6人

板　書：鴨志田結花（対話ラボ）

参観者：39人（講座受講生22人、一般17人）

(3)会議メンバー：青山早岐（柳沢公民館講座受講生:柳沢公民館保育付きママサークル所属）、有馬将由（柳沢公民館講座受講生：NPO法人終活支援センター代表）、町田栄一郎（講座受講生：三幸自動車株式会社　代表取締役）、妻屋良男（西東京市社会福祉協議会　福祉活動推進課課長補佐兼地域福祉推進係長）、中村眞弓（西東京市西原町包括支援センター　主任介護支援専門員）、横山桂樹（西東京市健康福祉部高齢者支援課　課長）

(4)概　要：第2回まちづくり円卓会議。テーマ「70歳代からの地域デビューを考える」について、これまでの話合いの流れを共有し、解決策の提案に対して意見交換し、期間限定でプロジェクト的に動き出す方向性を共有した。

Ⅳ　次年度まちづくり円卓会議に向けての会議

(1)日時・場所：平成28年3月23日（木）18:30～20:30　柳沢公民館　第2会議室

(2)参加者：ファシリテーター：熊田博喜（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科　教授）

会議メンバー　6人

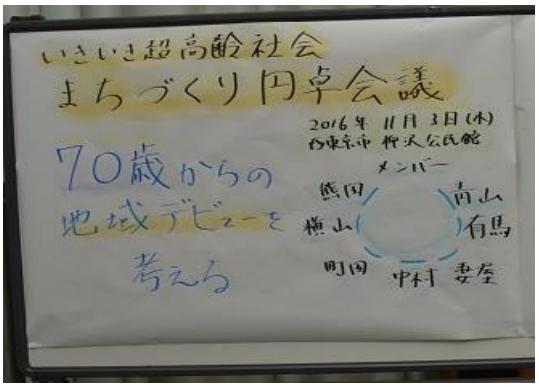
オブザーバ：公民館職員4人

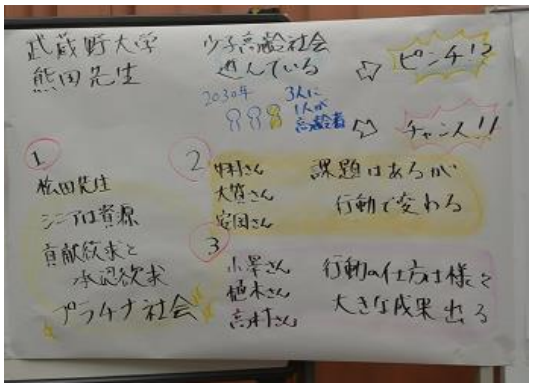
(3)会議メンバー：青山早岐（柳沢公民館講座受講生:柳沢公民館保育付きママサークル所属）、有馬将由（柳沢公民館講座受講生：NPO法人終活支援センター代表）、町田栄一郎（講座受講生：三幸自動車株式会社　代表取締役）、妻屋良男（西東京市社会福祉協議会　福祉活動推進課課長補佐兼地域福祉推進係長）、中村眞弓（西東京市西原町包括支援センター　主任介護支援専門員）、横山桂樹（西東京市健康福祉部高齢者支援課　課長）

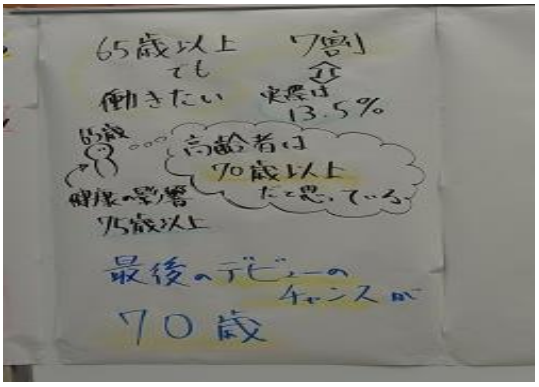
(4)概　要：1月の第2回まちづくり円卓会議を受けて、平成29年度の進め方について意見交換を行った。70歳代の地域デビューをテーマとし、多世代で関われる内容で進めることが合意された。

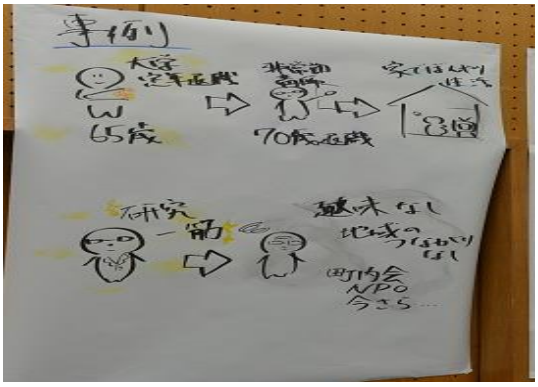
2.3 まちづくり円卓会議の板書（記録）

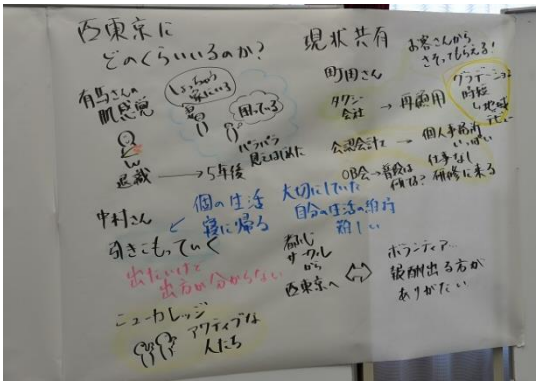
◆2016 年 11 月 3 日

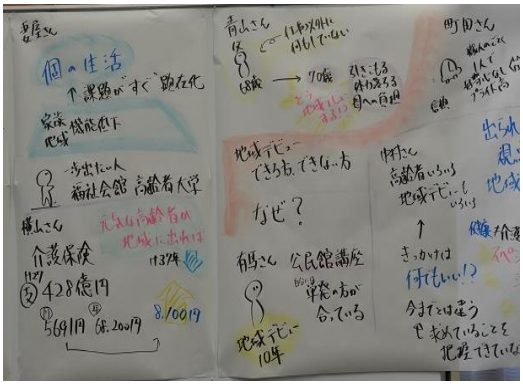


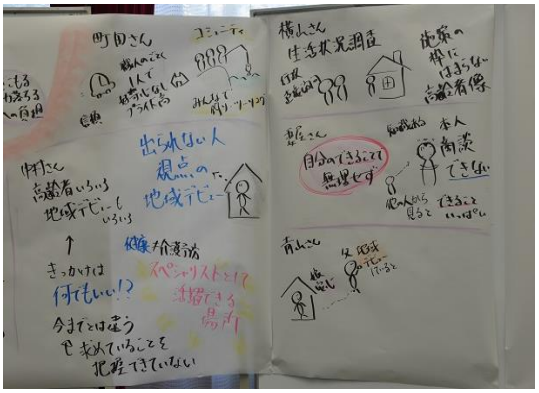




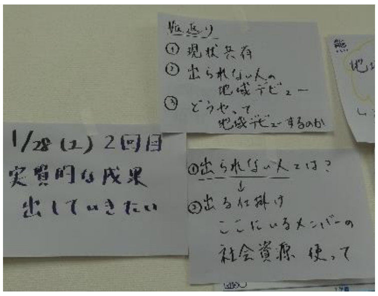


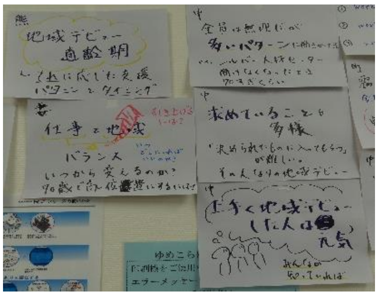


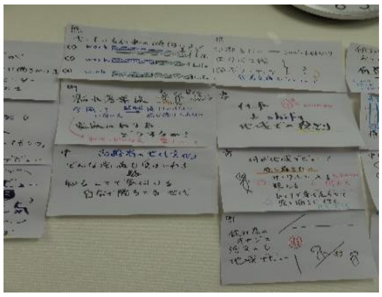


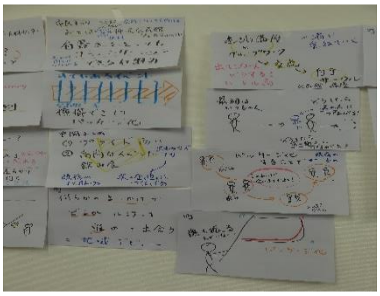


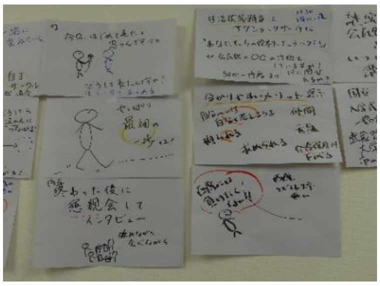
◆2016 年 12 月 6 日

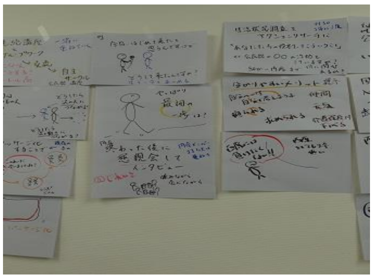


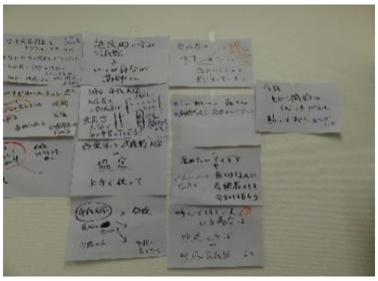




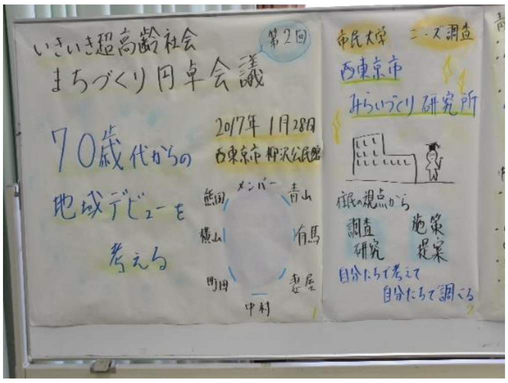


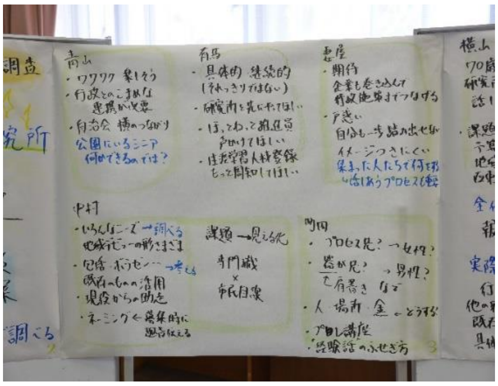


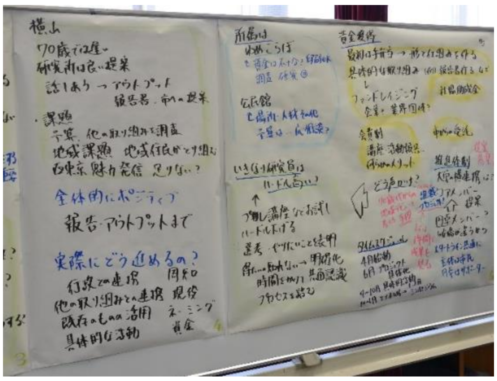


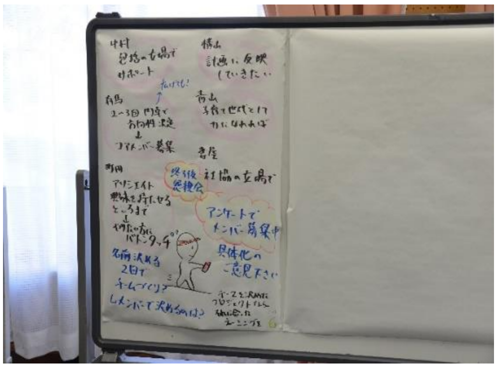


◆2017 年 1 月 28 日









2.4 議論の記録（成果と課題）

成　果

・超高齢社会で起こり得る課題を「70 歳代の地域デビューについて考える」点に絞って話合いを進められた。
・まちづくり円卓会議メンバーがそれぞれの立場でテーマについて起こっている課題を出し合い、多様な視点から事実にもとづく課題の共有ができた。
・そのことにより、課題解決に向けて研究所立ち上げという方向性が生まれた。
・研究所への期待と必要性を参観者とともに共有できた。
・より具体的な活動を継続して行っていく可能性が生まれた。
・公民館としての社会教育的内容とゆめこらぼとしての地域連携促進的内容を連携させることができ、主催側にとっても市民にとっても充実した内容となった。
・これまで地域と繋がりにくかった人たちについて実際に調べることの必要性を共有できた。
・課題の解決策としてのアイディアをファシリテーターから提案できた

課　題　（積み残した課題）

・地域デビューの定義と多様性
・地域デビューの場について（広報、場所、時期等）
・地域デビューまでの流れについて
・地域デビューへの繋げる方法について
・行政施策の周知
・多様なニーズと多様な対応への対策
・ニーズ調査（実態の把握とそのことに対する対応）早い時期からの地域デビューについて
・パッケージ化（既存のものを繋ぐ）
・地域デビューのメリットを伝える（自己の生活の向上と介護保険料・税金への負担）

2.5 アンケート結果

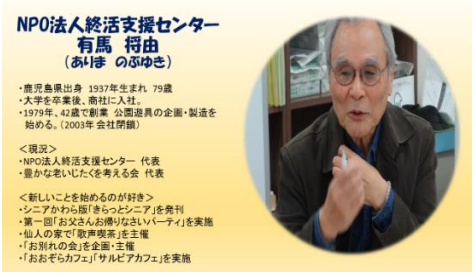
参観者

	11 月 3 日	1 月 28 日
参観者人数	46 人	39 人
回　　収	26 人	27 人
	・「70 歳の人が地域デビューすることが可能なのかどうかのテーマ」についてお話しと討議がありましたが、私の住んでいる周りをみても一人ぐらしをしている男性の高齢者（70 歳以上）がいます。外にでている様子はみられません。声をかけずらいです。ちょっとしたことで挨拶からたのしみの情報提供を出来ればと思いました。 ・「70 歳からの地域デビュー」まさに親が直面している課題で,リアルに考えることができました。 講座に参加されている方はすでに地域デビューしている方なので、まだデビューしていない人をどう誘い出すか考えてみたいと思いました。 ・”地域デビュー”しなくても地に足を着けて暮らすことが出来ればよいのだと思いました。 誰かとつながっていることの大切さを実感しました。	・連続講座で使われたキーワード「一歩踏み出す勇気」は潜在アクティブ層だけに向けられたものではなく、私たちにも問い掛けられたものと思う。具体的な提案が出されたことは大変嬉しく思いました。 ・潜在アクティブシニア層の地域デビューにより介護予防の課題に視点にとられることは重要と思うが、デビューをどうとらえていくかは個々の事情もある。レールに乗れない方（？）のニーズ調査を研究所に期待したい。 ・70 歳から退職してからではなく、在職中からそれなりのことを実行し 70 歳以上の人の助けになるようにがんばってもらいたい。 ・大変に良いご提案だと思いました。細かな課題は色々たくさんあるとは思いますが、まず踏み出すこと行動を起こすことが必要だと思います。私も是非参加したいと思います。お役に立ちたいと思います。 ・6 月の準備会から参加させて頂き、今回１つの形にまとまってとても勉強になりました。「みらいづくり研究所」ずっと続けていけるような、未来につながる良い名前だと思いました。研究員が「基本無償」なので、テーマに外れた的外れな人が来てしまう危険はあまりないと思いました。 今後も活動に何かしらの形で関わっていけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

３．その他

◆まちづくり円卓会議　メンバー紹介

ファシリテーター



板書（グラフィックファシリテーション）